

(別記)

令和3年度小牧市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

現在、水田は市内の耕地の約半分を占め、米は本市の中心的な作物であり、戦略作物では加工用米、飼料用米が定着しつつある。

地域振興作物では、水田を活用し、野菜を中心に生産している。しかしながら、担い手が不足しており、耕作放棄地が点在している。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市は、圃場整備によってまとまった農地が存在し、水稻の作付に適していることから、引き続き米の生産に取り組む。

直播栽培や多収品種導入による作期分散等の低コスト生産の取組を推進し、加工用米や飼料用米などの転換作物の作付面積の増加を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市は、水稻を主軸に生産している担い手が多く、大規模な農業経営を行っている法人も存在するため、水田として集積・集約化を進め、農業者の生産性の向上を目指す。

水田の利用状況は、現地確認による点検を行う。

畑地化の取組は、農地転用の原因となる可能性があるため原則として推進しない。

しかし、水張水田も含め水稻作付をしない作付体系が、数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田については、畑地化も検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

・売れる米づくりを目指し、作付品種を『あいちのかおり』を主力にし、また、消費者ニーズに応える減農薬・減化学肥料栽培など、安全安心な米づくりを推進する。

・受託水田の集約化、乾田直播による繁忙期の分散化、低コスト技術の推進、種子更新の推進、品種適正配分により、地域稲作の効率的な運営を進める。

・乾燥調整施設による集荷体制の構築を進めていく。

(2) 備蓄米

・低コスト生産の取組を進め、国の備蓄米運営に寄与するため取り組む。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

・生産性の向上を図るため、立毛乾燥やカメムシ防除対策に取り組む。

イ 米粉用米 該当なし

ウ 新市場開拓用米 該当なし

エ WCS用稲 該当なし

オ 加工用米

・低コスト生産の取組を進め、主にJA あいち経済連集荷による実需者への安定供給の推進に取り組む。

(4) 麦、大豆、飼料作物

該当なし

(5) そば、なたね

該当なし

(6) 高収益作物

・水田を活用した栽培が可能な野菜について、地域振興作物として取り組む。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	369	356	339
備蓄米	11.78	11.78	11.78
飼料用米	0.00	0.30	1.00
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米	19.07	20.11	21.00
麦			
大豆			
飼料作物			
・子実用とうもろこし			
そば			
なたね			
高収益作物	0.49	0.50	0.60
・野菜	0.49	0.50	0.60
・花き・花木			
・果樹			
・その他の高収益作物			
その他			
畑地化			

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	野菜 （基幹作）	高収益作物（野菜） の取組	取組面積	（2年度） 0.49ha	（5年度） 0.60ha
2	加工用米 飼料用米 （基幹作）	加工用米・飼料用米 の取組	加工用米取組面積 飼料用米取組面積 計	（2年度） 19.07ha 0.00ha 19.07ha	（5年度） 21.00ha 1.00ha 22.00ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。